

人生会議

皆さん、人生会議をご存知ですか？あまり聞き慣れない言葉かもしれませんね。それでは、終活はいかがでしょうか？これなら知っているという方は多いのではないのでしょうか。もしかしたらすでに、人生の最期をどこで迎えたいか考えておられたり、お葬式やお墓の段取りを決めておられる方もいるかもしれませんね。

今日お話をする人生会議は、その終活の1つとして「人生の最終段階における医療や介護」について、家族あるいは信頼のおける近しい人と話し合い、残りの人生をどのように生きるかを考え、最終的には書面で残すものです。

では、人生会議について説明をしたいと思います。現代は超高齢社会と言われています。実際、昨年は136万9千人の方がお亡くなりになっています。また、平成27年の人口動態調査によりますと、最期を迎える場所として約75%が病院、老人ホームなどの施設が約10%、自宅は12.7%となっています。一方、最期迎えたい場所の希望についてのアンケートをみると、約50%の国民が自宅を希望されているという結果がでています。

現実には、いくらご本人が希望しても住んでいる地域の医療や介護の資源、環境、ご家族の状況により希望通りにはならないかもしれませんが、事前にご本人の希望が知らされていたために、自宅で最期を迎えることができた例もあります。

また、2017年現在の日本人の平均寿命は男性が81.09歳、女性が87.26歳であり、世界でも1、2を争う長寿国となりましたが、長寿ゆえに死因の順位はガン、心臓疾患、老衰、脳血管疾患と老化に伴う病気が上位を占めています。いずれ私達も、このような病気で最期を迎えることになるかもしれません。

そのような人生の最終段階の医療や介護を考えた時、どのような処置を選択するかによって、残りの人生が大きく変わってしまう事になります。

例えば、皆さんは口から食事が取れなくなったらどうしますか？

病状にもよると思いますが、短期間で回復が望めるのなら点滴を行えばいいかもしれません。しかし、回復の見込みが低い状態と判断されたとき、①点滴を続ける、②鼻腔栄養といって鼻から管を入れて栄養を取る、③胃瘻といってお腹に穴を開けてボタンなどの器具をつけそこから栄養を取る、④口から食事が取れなくなったら自然の摂理と考え、自然に任せて穏やかに最期を迎えるという選択肢もあります。

また、呼吸状態が悪化した際に人工呼吸器を装着するかどうかや、最近話題となりましたが、慢性腎不全が進行した際に透析の導入をどうするか？という選択を迫られることもあります。

人生会議では、このような「もしものとき」に、今述べたような医療処置や、どこで療養したいかなど、自分が望む医療や介護についてご家族あるいは信頼できる方、更には関わっておられる医療や介護の方々とは話し合っただけで決めます。勿論、療養しているうちに病状や生活の環境が変わることもありますから、その都度話し合いをして、今までに決めたことを確認し、場合によっては変更します。そのような今後の医療や介護について話し合っただけで決定することは、ご本人にとって残りの人生を、病気や障害に振り回されることなく、生活し生きるという意味において大変意味のあることになると思い

ます。

また、超高齢社会において認知症の方の生活は、運転免許証の更新など大きな課題になっていますが、認知症という視点で考えたとき、自分の意思で判断できなくなる前に、人生会議によって意思を確認することも重要だと言われています。

さて、人生会議の話し合いで特に重要なことは、その方が生きる上で大切にされてきたこと、あるいは生きる支えにしておられることを十分に考慮することです。ある方にとっては、お孫さんとの時間が生きる上でかけがえのないものかもしれません。またある方にとっては、美味しいものを食べることが生きていることを実感できる大切なことかもしれません。

あるいは、神仏に手を合わせることをなにより大切にしておられるご高齢の方もおられるかもしれません。人はそれぞれの人生を歩む中で、ご本人は意識しておられないかもしれませんが、大切にされてきたもの、支えになっているものを持っておられます。そのような想いを大切に考えた医療や介護が提供される時、その方の残された人生は充実したものとなるでしょう。

今から「もしものとき」なんて縁起でもない！元気なときにそんなことは考えられない！と思われる方もおられるかもしれません。

勿論、人から強制されて無理やり考えるものではありませんし、実際、親や配偶者など身近な人が先ほど述べたような医療処置が必要になって初めて考えることが多いのだと思います。

最後に、もし人生会議であなたの想いが書けましたら、是非、信頼しているかかりつけの医師にお伝えください。あなたの想いに沿った医療や介護のお手伝いをさせていただけると思います。